

2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立尾西第一中学校	学校 N o .	66
1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制） ・ 目標 福祉にかかわるさまざまな活動の中で、施設利用者やその運営に携わる方々との交流やボランティア活動を通し、共に歩むことの心構えや自分にできることを考える力を身につける。 ・ 計画 ボランティア活動、福祉実践教室など。 ・ 推進体制 有志参加者を募り、各計画を推進する。 2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録） ・ ボランティア福祉体験学習 市内の施設4カ所では志生徒が活動した。 ・ 赤い羽根共同募金 市内の商業施設3カ所では志生徒が活動した。 ・ 福祉イベントへの参加 市内の福祉イベントの運営に有志生徒が携わった。 ・ 福祉実践教室 1年生の生徒を対象に体験活動を行った。 3. 福祉教育の成果と今後の課題 ・ ボランティア活動を通して、障がいのある方々や施設の方々と交流することで、それぞれの方々が生きがいをもって生活している姿を見ることができた。 ・ 福祉実践教室での体験を通して、相手のことを考え、自分たちにできることを主体的に行動していこうとする心を育むことができた。 ・ 今後も意欲的により多くの生徒が福祉活動に参加できるよう促していきたい。			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和6年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立尾西第二中学校	学校No.	67
-------	-------------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

（1）目 標

ア 社会には様々な立場の人がいることを知り、その生き方を学ぶことで生きるための目標をもち、心豊かな生活を送ることができるようにする。

イ 募金活動やエコキャップ回収活動に積極的に取り組ませることで、社会のため自分ができることに気付かせる。

（2）計 画

ア 福祉実践教室を通して、ユニバーサルデザインの視点を学び、誰もが過ごしやすい社会をつくるためにできることを見つけられるようにする。

イ 募金活動やエコキャップ回収活動を活発にするためにポスターを作成したり、呼びかけを行ったりする機会を設定する。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（1）福祉実践教室……………11月26日（火）

（2）赤い羽根の募金（校内）……………11月26日（火）～11月28日（木）

（3）かしの木フェスティバルボランティア……………11月9日（土）

（4）アルミ缶・エコキャップ回収活動……………通年

3 福祉教育の成果と今後の課題

- ・福祉実践教室を通して、様々な人との共生社会の実現に向けて、自分のできることを発見したり、確かめたりすることができた。
- ・多くの生徒が、かしの木フェスティバルのボランティアに参加した。
- ・募金活動やエコキャップ回収活動を通して、「共に生きる」という気持ちを高めることができた。また、自分にできることを考えるよい機会となった。
- ・委員会活動や特定の学年での実践を行った。継続的に実践できるように、生徒の実態に合わせた福祉教育に取り組んでいきたい。








2024年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立尾西第三中学校	学校 No.	68
-------	-------------	--------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

「身近な生活で周りに対する社会貢献」「地域の中でボランティア活動や募金活動などで貢献しよう」ということで取り組むことにした。

福祉委員会、ボランティアの生徒を中心に、次のようなねらいで計画・実践した。

○行事や授業での取り組みを通して、福祉に関する理解を深めさせる。

○学級、学校等で自分から人の喜ぶことを行い、福祉に対する意識向上を図る。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

4 月 前年度からの係の引継ぎを行った。

5 月 小信中島連区市民体育祭中学生ボランティアに参加 59名
小原町内会春の大掃除ボランティアに参加 15名
地域清掃活動として、1・2年生が学校周辺を、3年生が尾西緑道や尾西グラウンド、小信児童公園を清掃
福祉実践活動を1年生が車いす・手話・点字・ガイドヘルプ・高齢者疑似体験に分かれて体験をする。

6 月 福祉委員があいさつ運動もかねて行いユニセフ募金への協力（3日間）

7 月 小信っ子クラブふれあい祭に参加 21名
青少年等ボランティア福祉体験学習に参加
・社会福祉法人樫の木福祉会かしの木の里 3名
・特別養護老人ホーム アルメゾンみづほ 3名
・特別養護老人ホーム 奥町 5名

8 月 開明連区夏祭りボランティアに参加 59名
おもちゃ図書館「おもちゃの城」ボランティアに参加 2名

9 月 環境委員の協力のもと、アルミ缶回収を行った。（3日間）

10 月 「赤い羽根街頭募金活動」のボランティアに参加 5名
小原町内会ごみゼロ運動ボランティアに参加 20名

11 月 スポーツフェスタ中学生ボランティアに参加 24名
福祉委員があいさつ運動もかねて行い赤い羽根募金への協力（3日間）

12 月 「年の瀬ウオーキング」ボランティアに参加 13名

通年 3年生の有志があいさつ運動を行う。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

本年度は昨年度よりボランティア募集が増え、多くの生徒が福祉活動に積極的に参加することができてよかった。学校行事とボランティア募集と被ると、参加人数が減ることがあったため、募集期間にゆとりをもたせるなど、参加への意欲を向上させていきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和 6 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名	一宮市立木曽川中学校	学校 No.	69
1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制） 本校では、「思考・実行・協力」（三考）の校訓のもと、ボランティア活動を位置づけ、福祉教育を計画的に進めている。社会福祉に関する実践的な学習の機会を通して、福祉への理解と関心を高め、ともに生きる姿勢を育てるとともに実践力の向上を図り、豊かな心の育成に取り組んでいる。 2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録） （1）社会福祉活動に対する関心を深め、意識を高める活動 ① 福祉実践教室 11月27日（木）本校にて、1年生全員が手話・点字・要約筆記・車いす体験・ガイドヘルプ・高齢者疑似体験・認知症理解・発達障害理解のいずれかの活動に参加した。講師の方の説明を真剣に聞き、積極的に体験活動に取り組むことができた。活動後にはレポートを作成し、保護者会の時期に廊下に掲示することで、福祉にかかわる啓発をすることができた。 ② 福祉に関するレポート作成 ①に記述した通り、福祉実践教室での体験を踏まえ、1年生の総合的な学習の時間の中で、福祉に関するレポートを作成した。作成したレポートを全学級廊下に掲示することで、1年生全体に福祉にかかわる啓発をするとともに、保護者会の時期に掲示することから、保護者にも啓発することができた。 ③ 人権週間の取り組み 全国的な人権週間に合わせて、本校でも「人権週間」を設け、人権について考えた。校長による人権講話、生徒会による人権に関する作文の朗読やよいこと見つけの取り組み、人権標語の募集などの活動を通して、人権に対する関心を高めた。 （2）地域との連携を図る活動 今年度は夏休み福祉体験学習、一豊まつり、いちのみやボランティアフェスティバルに参加した。それぞれの活動において、生徒は主体的に活動に参加することで、福祉に対する意識を高めることができた。 3. 福祉 教育の成果と今後の課題 主に福祉実践教室やレポート作成を通して、障がい者や高齢者への接し方、ユニバーサルデザインなどの理解をするとともに、生徒たちの福祉に対する関心を高め、視野を広げることができた。 また、地域の行事にボランティアとして参加する生徒も増えてきており、福祉に対する意識の高まりを実感することができた。 今後もボランティアに関する活動の機会を紹介し、学校生活や地域に根差した日常的なボランティア活動への取り組みを継続していきたい。			



様式 4

令和 6 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学校名 愛知真和学園 大成中学校

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校の教育理念でもある「報恩感謝」を様々な福祉活動を通じて体得することを目標にしています。

また在学中だけでなく卒業後の今後の人生においてもいろいろな場面で役立ててほしいと考えています。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

- ・エコキャップ回収運動（文化祭で集計結果発表）
- ・レモネードスタンド活動（文化祭内）
- ・赤い羽根募金活動参加
- ・校外周辺清掃活動
- ・校内美化運動

3 福祉教育の成果と今後の課題

成果

様々な社会活動を通じて生徒の意識向上・心構えに好影響を与えている。

今年度も生徒会を中心に自分たちで企画した。

昨年度まで続いていた東日本大震災応援企画「ヒマワリの種」が昨今の猛暑により思うような結果が得られなかったので昨年度より始めたレモネードスタンド活動「小児がん支援」を中心に切り替えるなど自分たちで何ができるかを真剣に考えるようになった。

今後の課題

生徒主体の自主的な活動として定着した一方で今後も新しい企画を検討するなど形骸的なものとならないよう注意深く見守りたい。

レモネードスタンド普及協会

LEMONADE STAND PROMOTION ASSOCIATION

た多くの方々による「小児がん支援をしたい」思いにより、私たちの願いは想像以上に広まったと認識しています。

レモネードスタンド活動が多くの方々に広がり、当協会が目指していた「レモネードスタンド活動の普及」において一定の役割を果たせた為、このたび当協会の活動を2024年6月末で終了し、レモネードスタンド普及協会サイトを2024年10月末で閉鎖しました。

皆様のレモネードスタンド活動で集まった寄付金は「JCCG（日本小児がん研究グループ）」へ直接寄付することができますので、「JCCG」のサイトをご覧ください。

ご寄付・ご支援のお願い | JCCG

※外部サイトに移動します

【注意】レモネードスタンド普及協会口座の受付は10月末で終了しました。当口座宛に入金があった場合は、寄付金と判断しJCCGにまとめて寄付します。

レモネードスタンドの開催方法や開催レポートの公開、実施証明書が必要な方は、「レモネードスタンドジャパン」のサイトをご覧ください。

【レモネードスタンドジャパン】

※外部サイトに移動します

【注意】開催レポートの掲載、活動証明書の発行は寄付先がレモネードスタンドジャパン(CNJ)の場合に限ります。

これまでの皆様の温かいご支援に心から深く感謝申し上げますと共に、これからも引き続き、レモネードスタンド活動を通じた小児がん支援にご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

2024年10月31日

レモネードスタンド普及協会



「レモネードスタンド普及協会」は終了となりますが、その大切な活動を引き継ぐ形で、新たに「JCCGレモネードスタンド活動ステーション」が設立されました。これまで同様に、小児がんと闘う子どもたちを支援するための寄付活動を続けてまいります。皆様のご支援は、未来を担う子どもたちにとって大きな希望となります。ぜひ引き続きのご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

詳細は、以下のリンクよりご確認いただければ幸いです。

JCCGレモネードスタンド活動ステーション

※外部サイトに移動します

© LEMONADE STAND PROMOTION ASSOCIATION. All rights reserved.